

都市の野生のブリコラージュ

-現代都市における路上観察・蒐集事例の再統合による設計提案-

長央尚真（槻橋研究室）



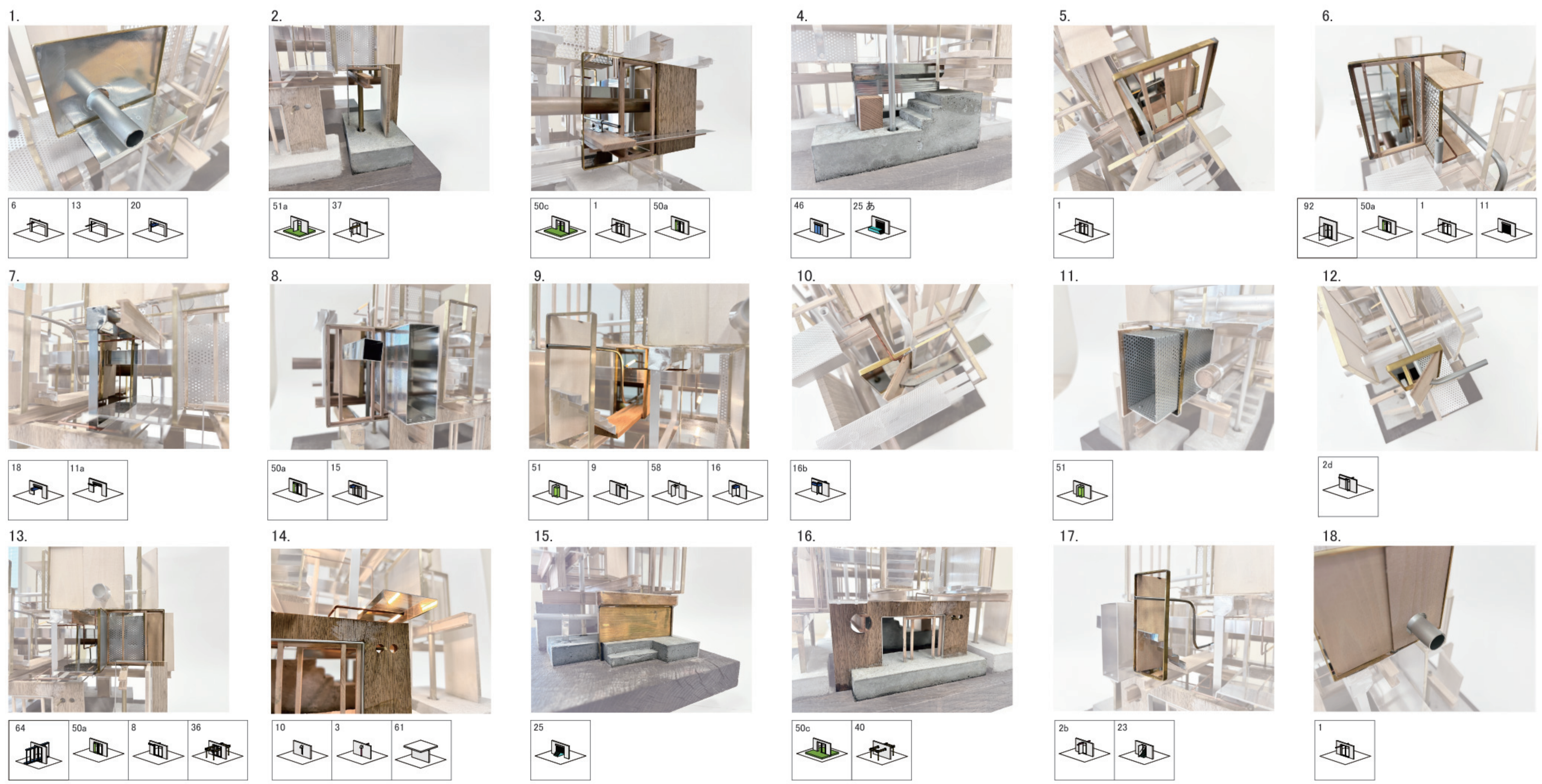
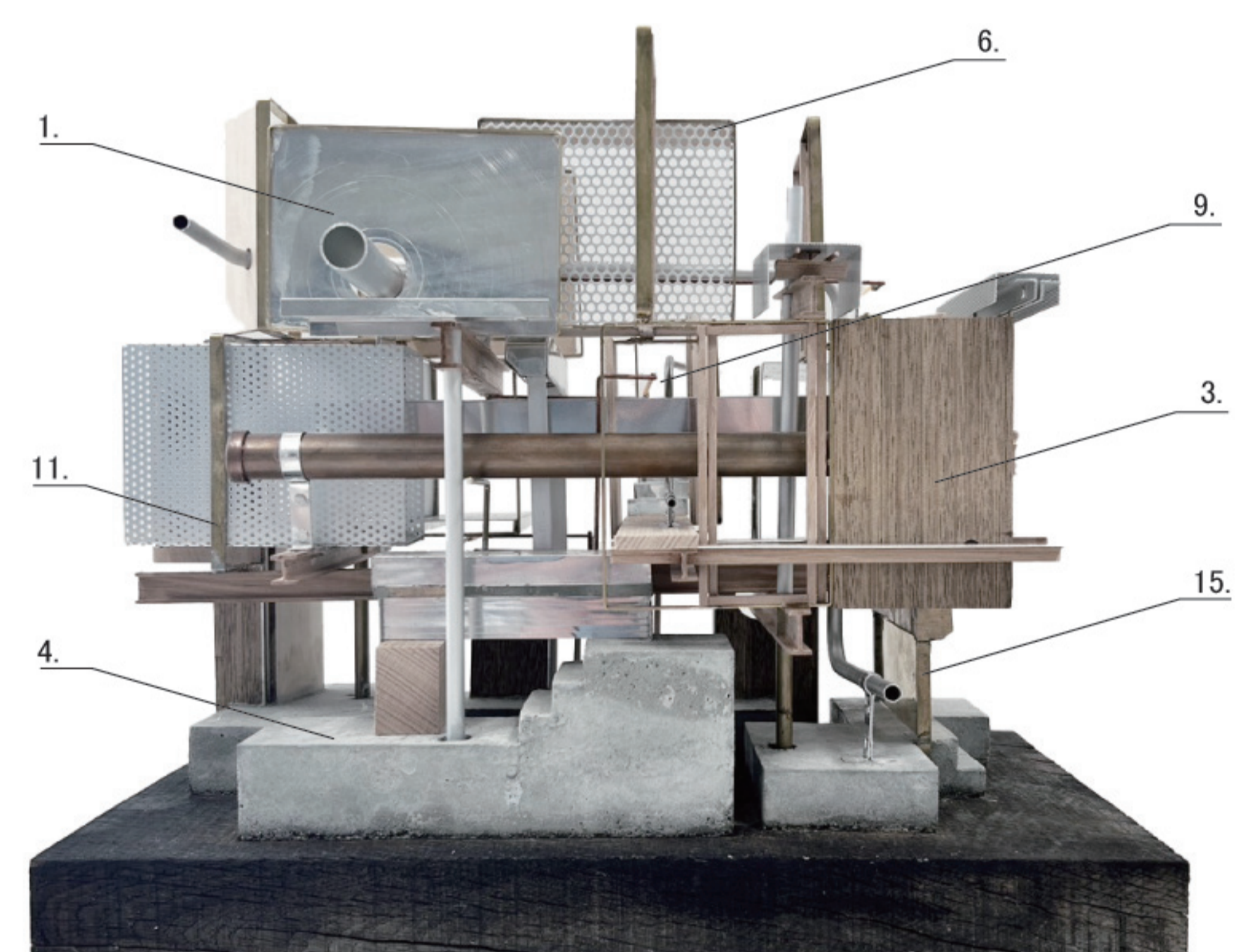
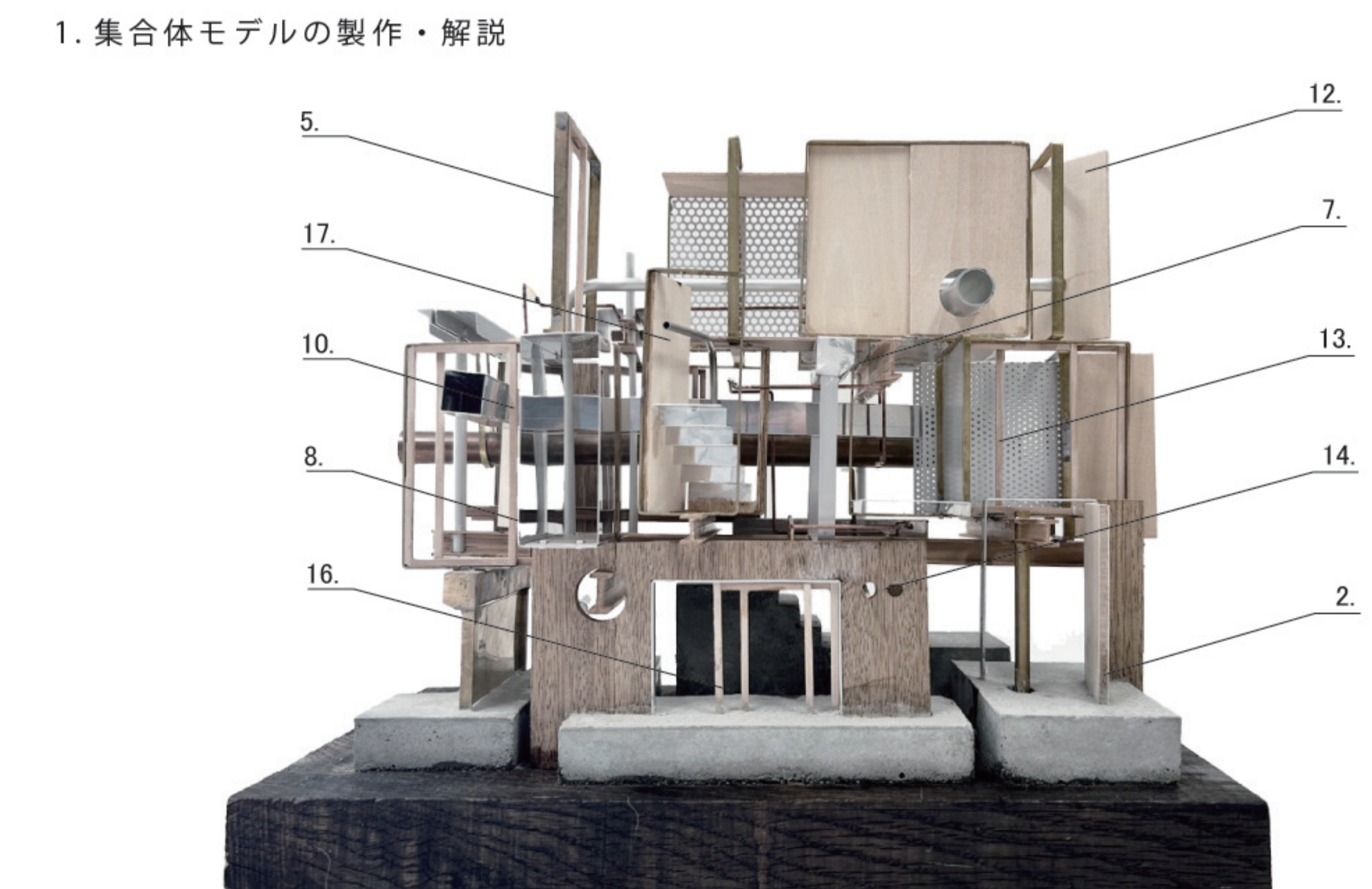
本研究は、路上観察を通して得られた野性的な建築の側面を再統合することで設計手法を確立すること。そして試行実験の一環としてそれらを用いて既存建築の改修を行うことで新しい都市風景を創出することを試み、建築の可能性を拡張し、その可能性を模索することを目的としている。具体的には、建築部材において面的な要素をもつものと、線的な要素をもつのが干渉した際に生じる通常起こりえない納まり・ディテールを「都市の野性的なふるまい」と称し、その蒐集・分析を行った。分析をもとに得られたその発生条件をもとに、設計手法への変換可能性について考察している。設計手法を提案し、それらを辞書のように索引できるようなコンセプトモデルを製作し、模型写真とともに解説を行った。

1. 蒐集事例の分析

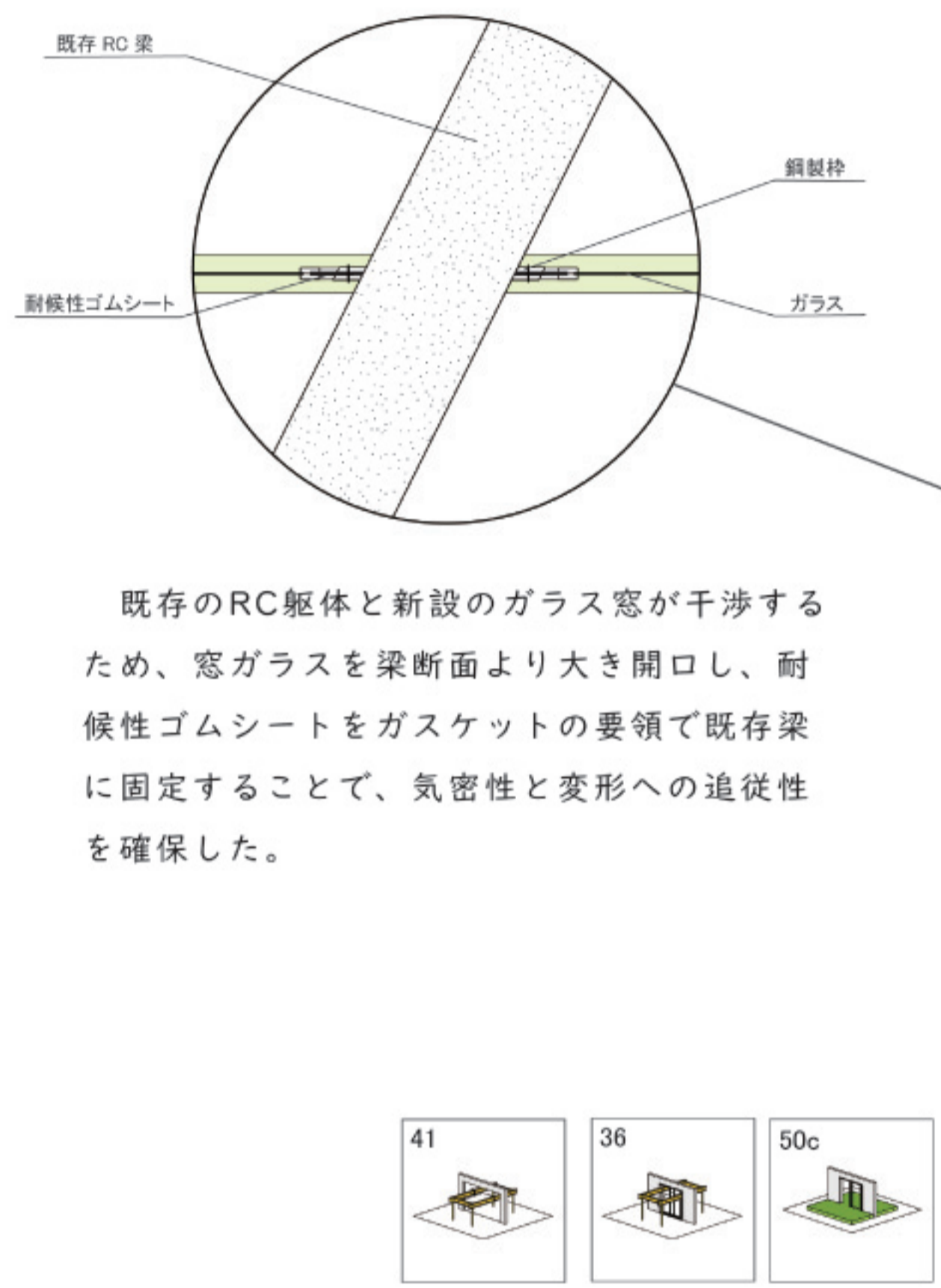
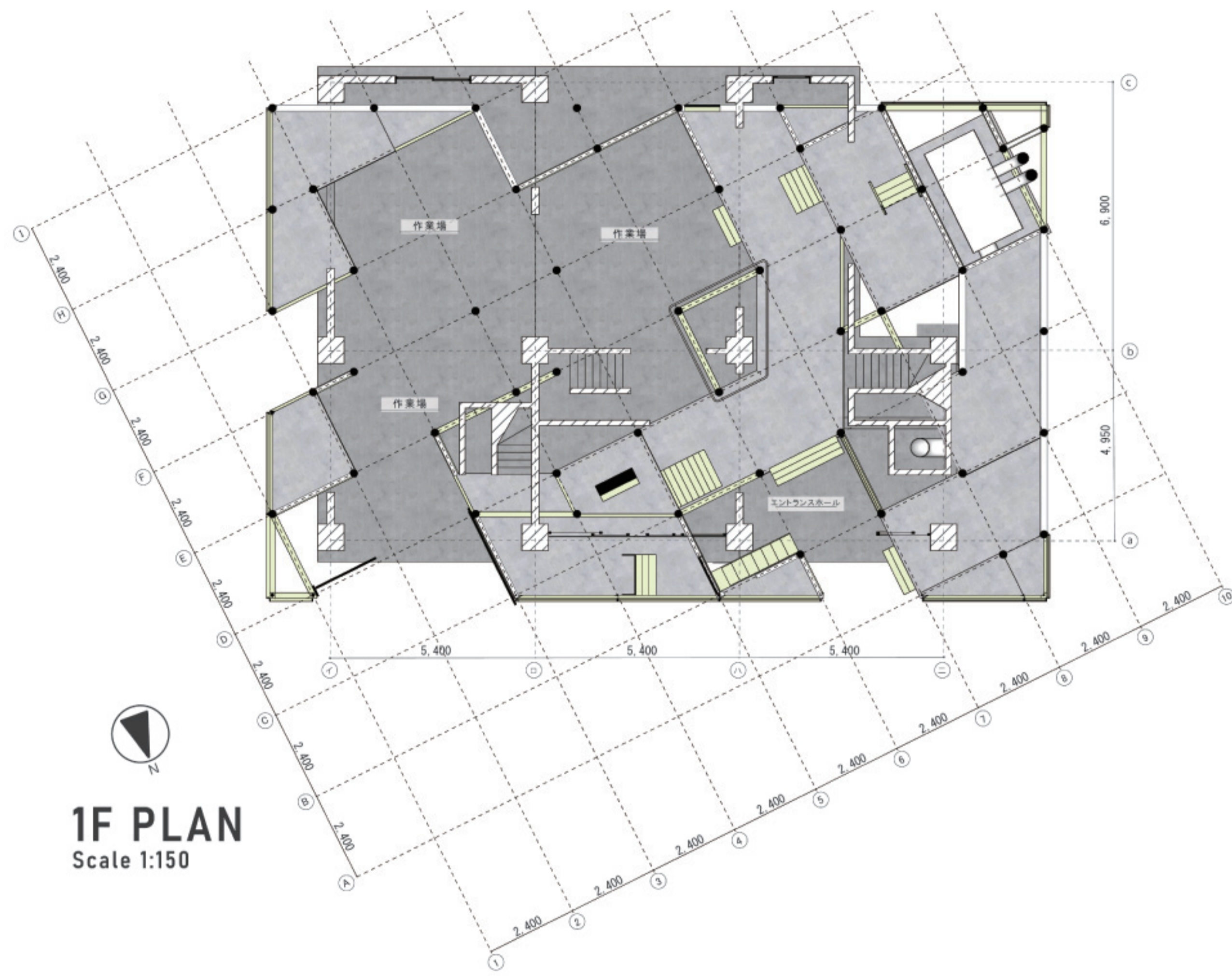
5	13	14	15	23	3	40
24	25	33	34	35	4	38
22	11	12	1	2	31	39
6	7	8	9	10	32	36
16	17	18	19	20	21	37
26	27	28	29	30		

2. 設計手法の提案

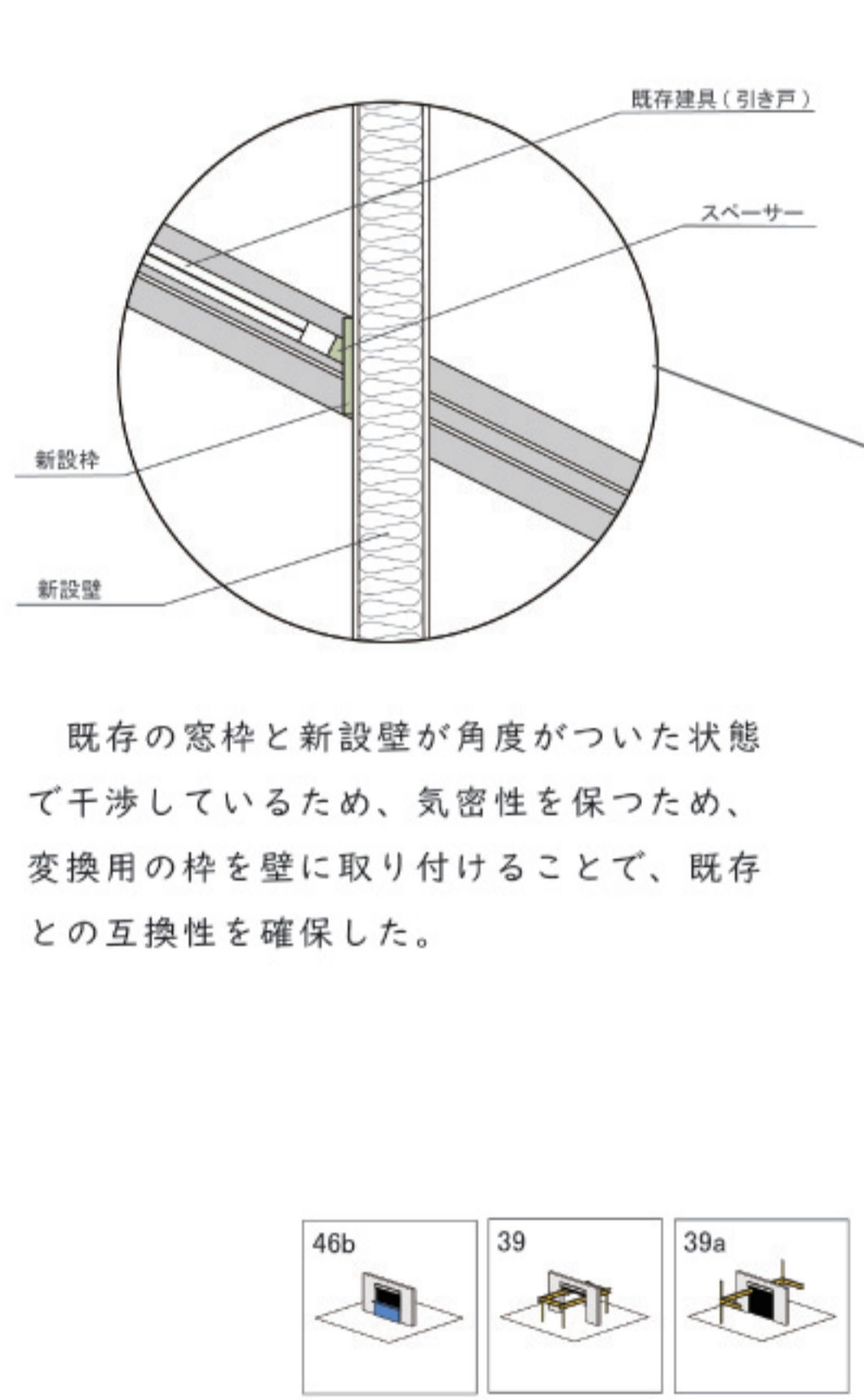
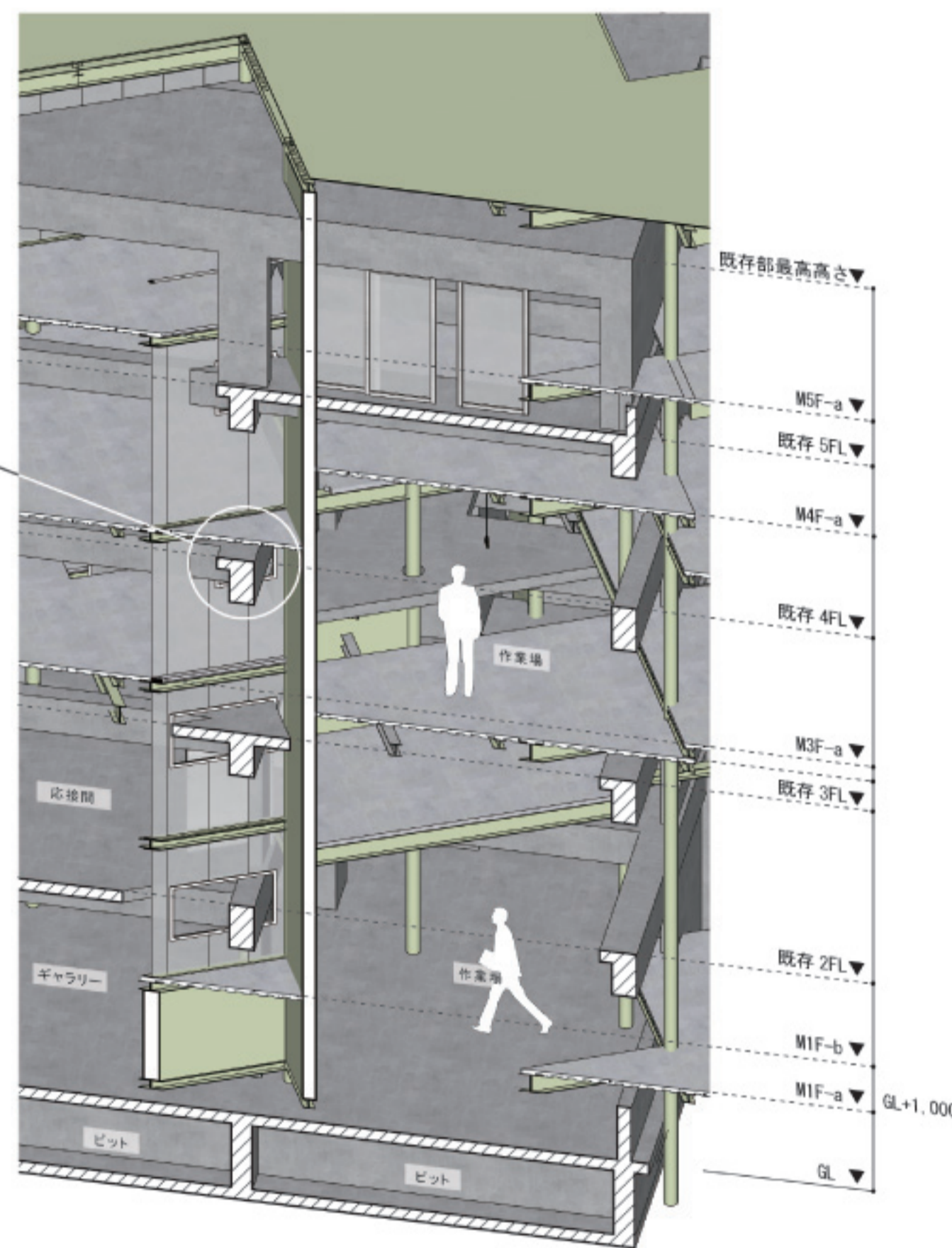
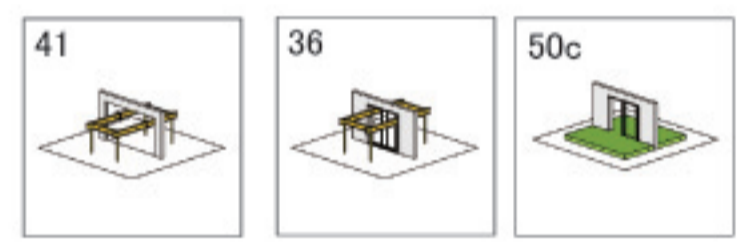
	面を貫く線材										面と交わる線材		
	液体配管	電気配線	気体配管	階段	手すり	構造部材	その他設備	通路・動線	ライン照明	軌道席	壁	ガラス	
開口部を有しない面	7	14	21	28	35	42	49	56	63	69	91	98	
開口部を有する面	6	13	20	27	34	41	48	55	62	68	90	97	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	67	89	96	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	66	88	95	
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	65	87	94	
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	64	86	93	
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	63	85	92	



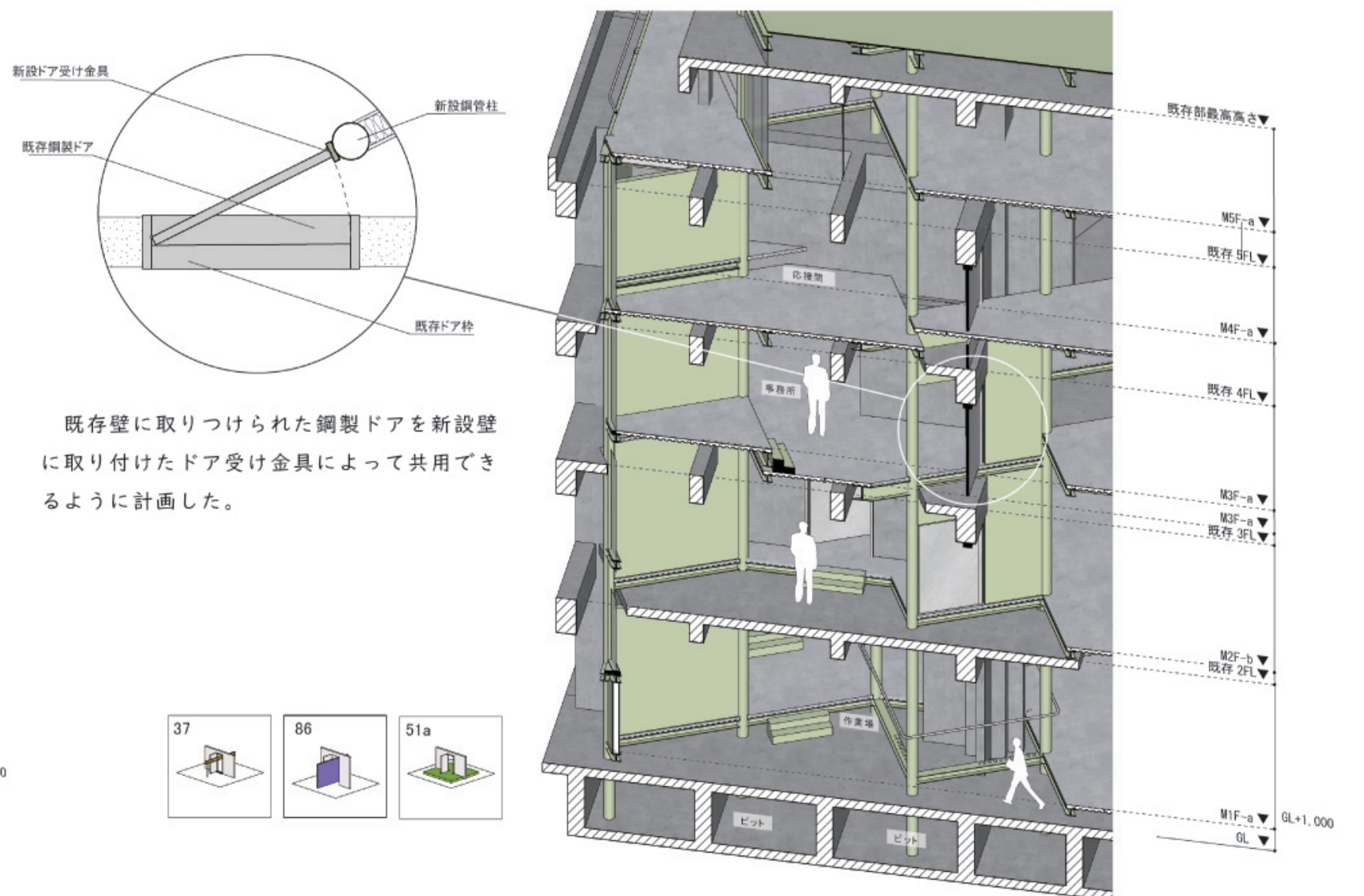
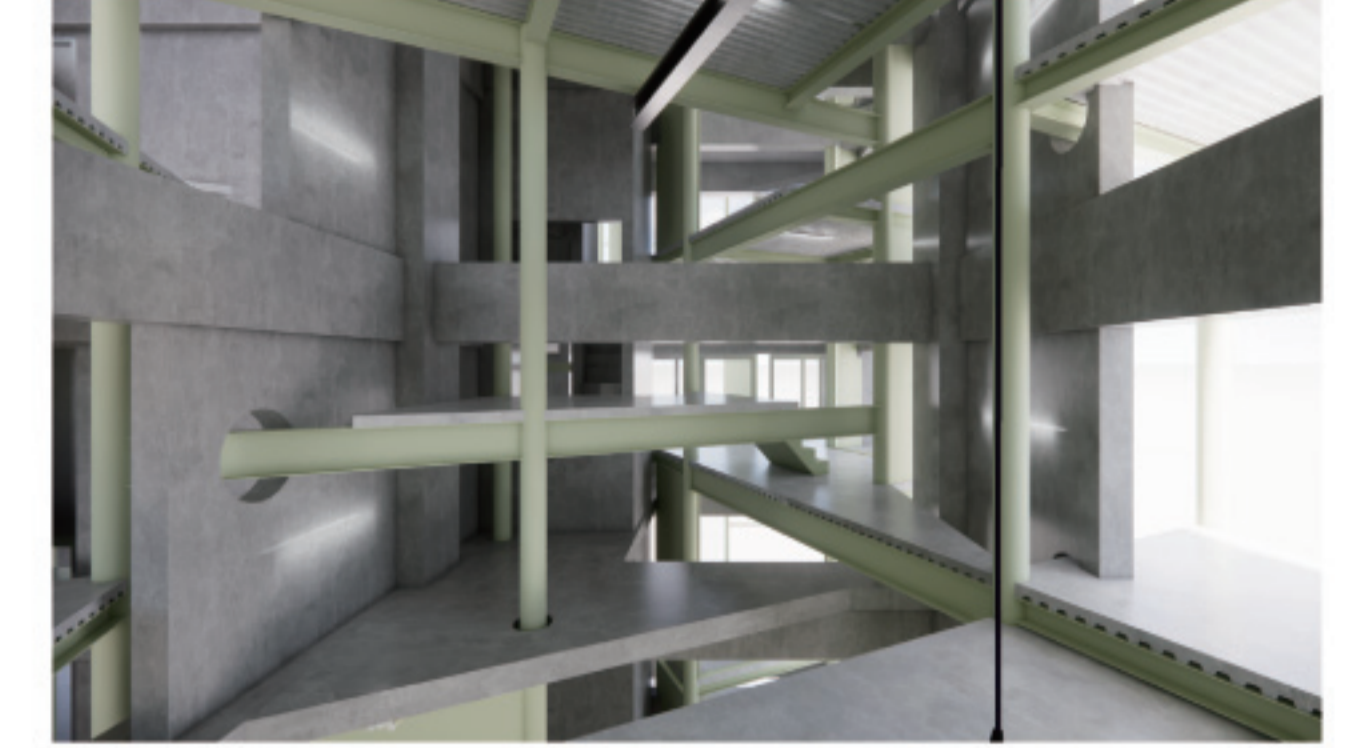
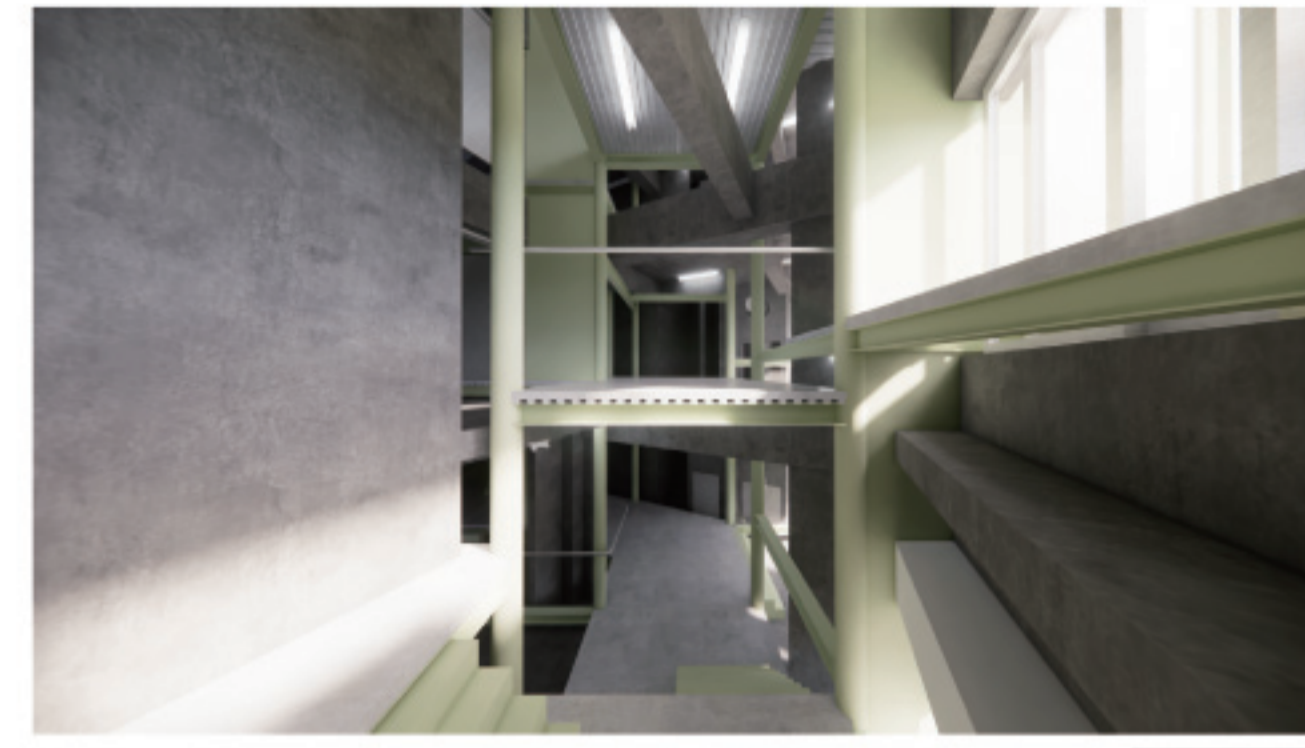
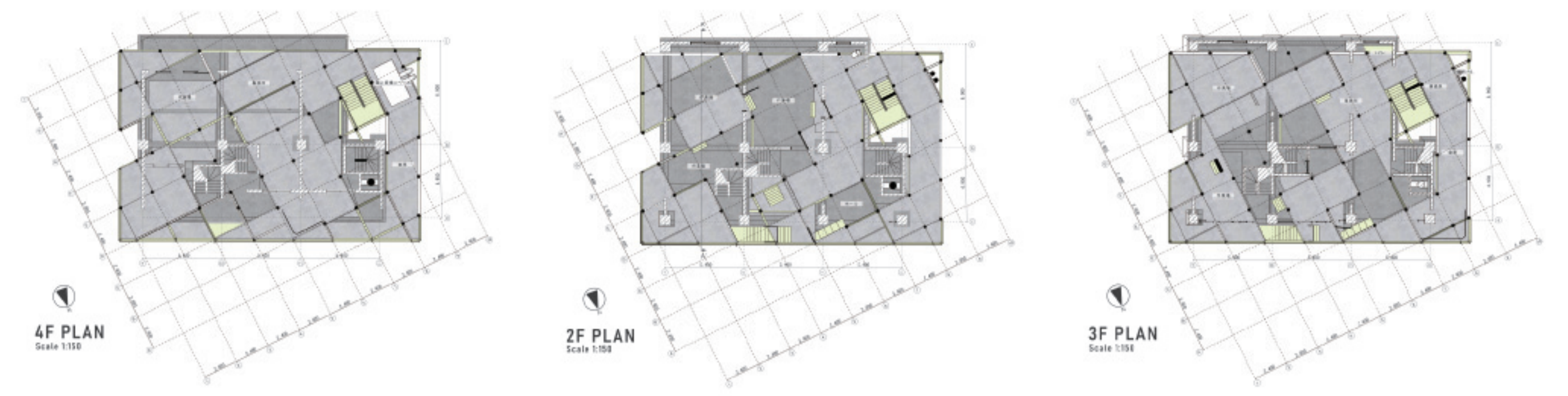
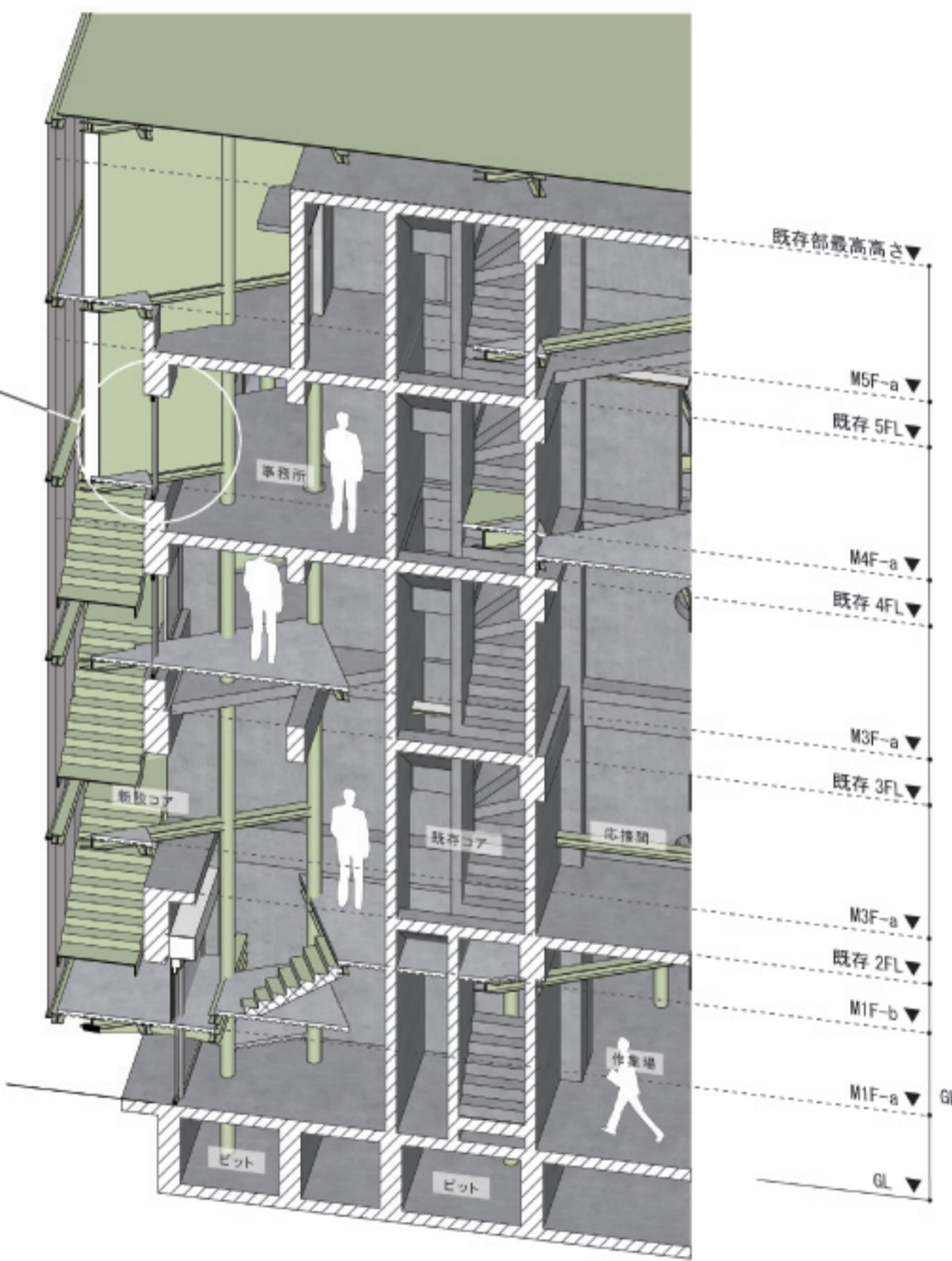
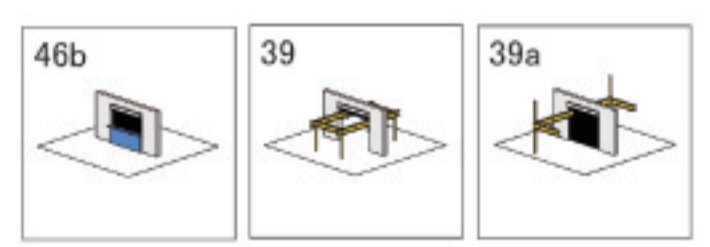
3. 既存建築物を対象とした設計提案



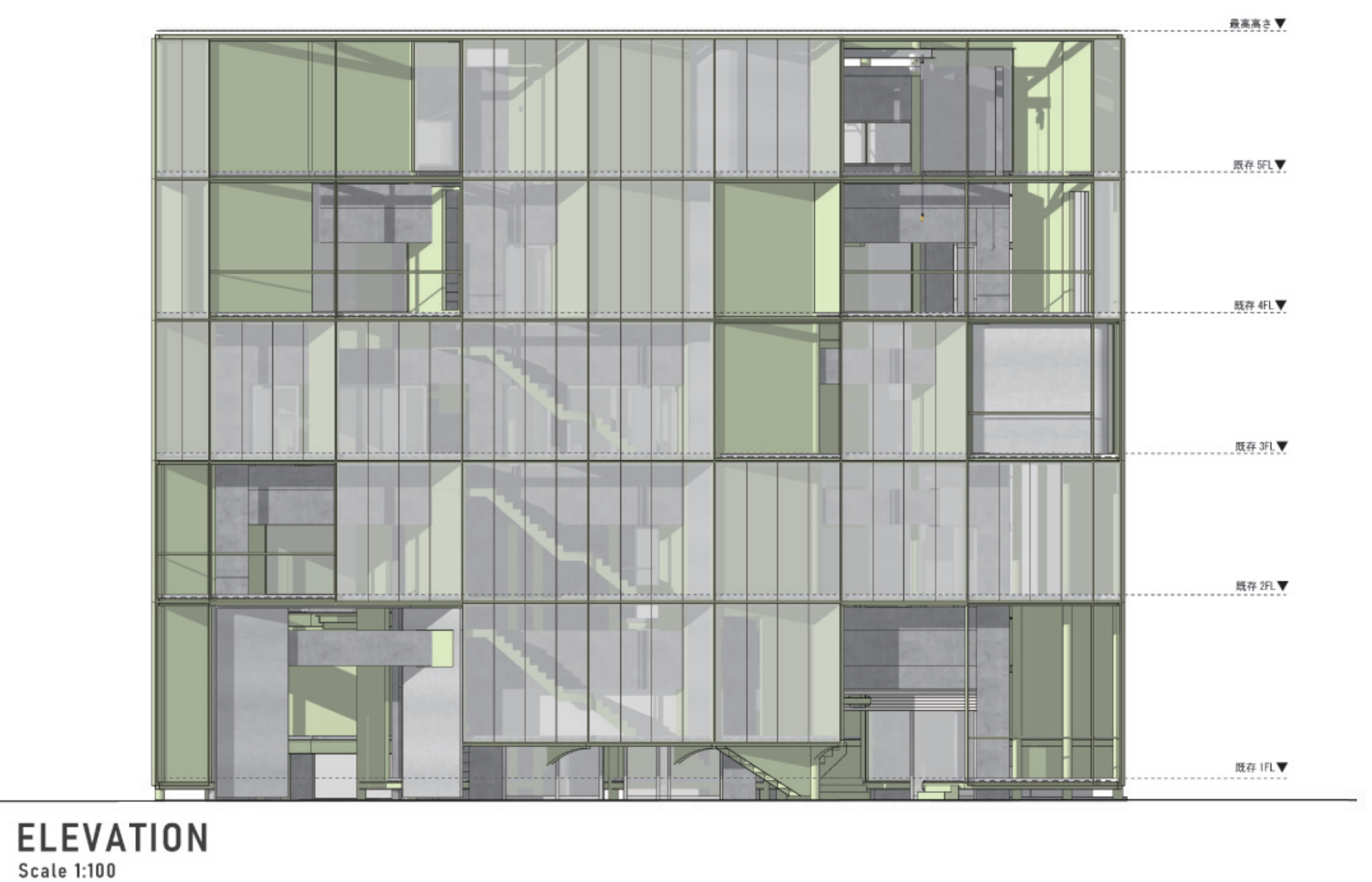
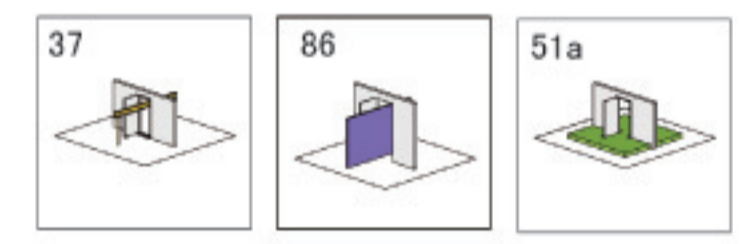
既存のRC躯体と新設のガラス窓が干渉するため、窓ガラスを梁断面より大き開口し、耐候性ゴムシートをガスケットの要領で既存梁に固定することで、気密性と変形への追従性を確保した。



既存の窓枠と新設壁が角度がついた状態で干渉しているため、気密性を保つため、変換用の枠を壁に取り付けることで、既存との互換性を確保した。



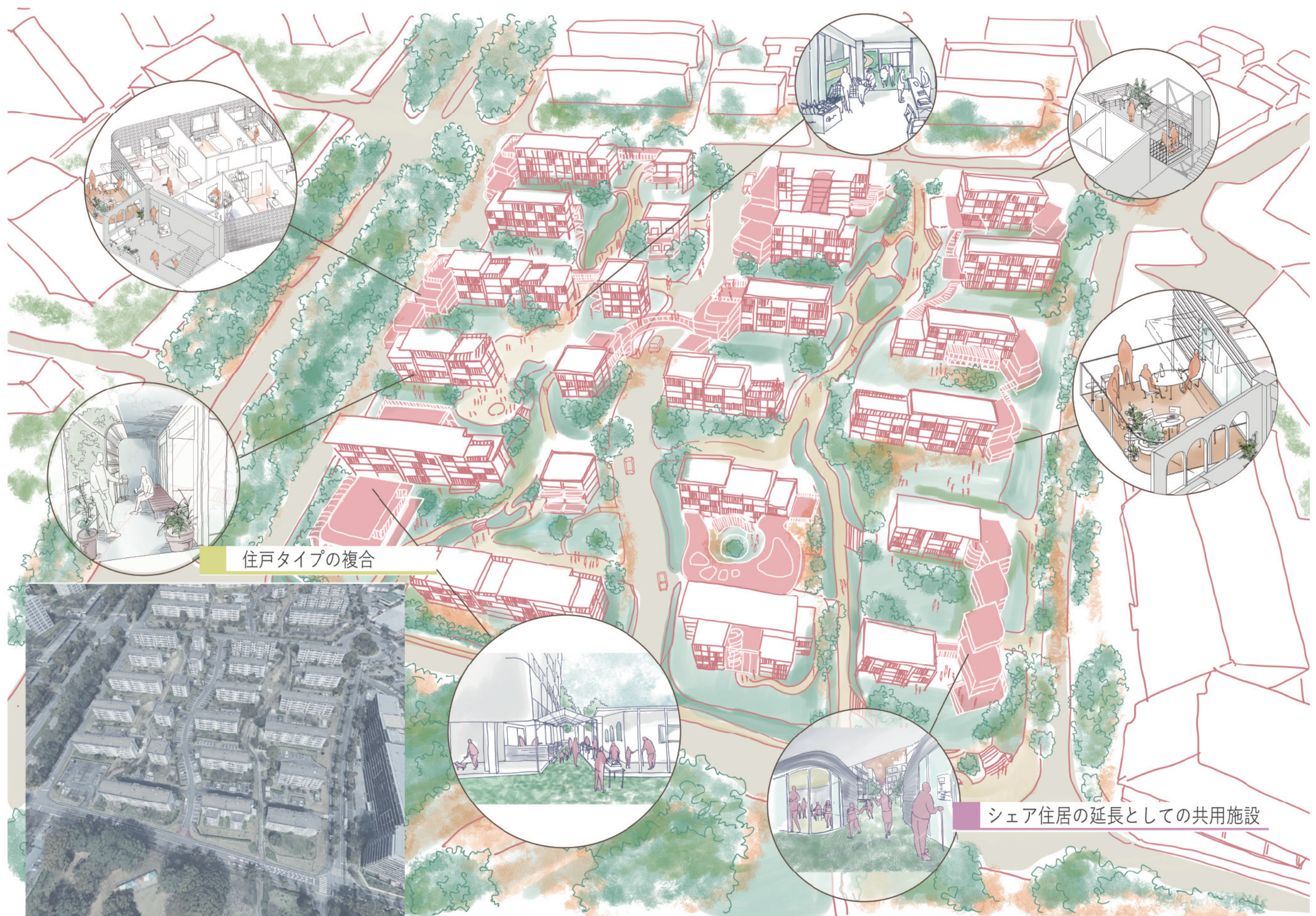
既存壁に取り付けられた鋼製ドアを新設壁に取り付けたドア受け金具によって共用できるように計画した。



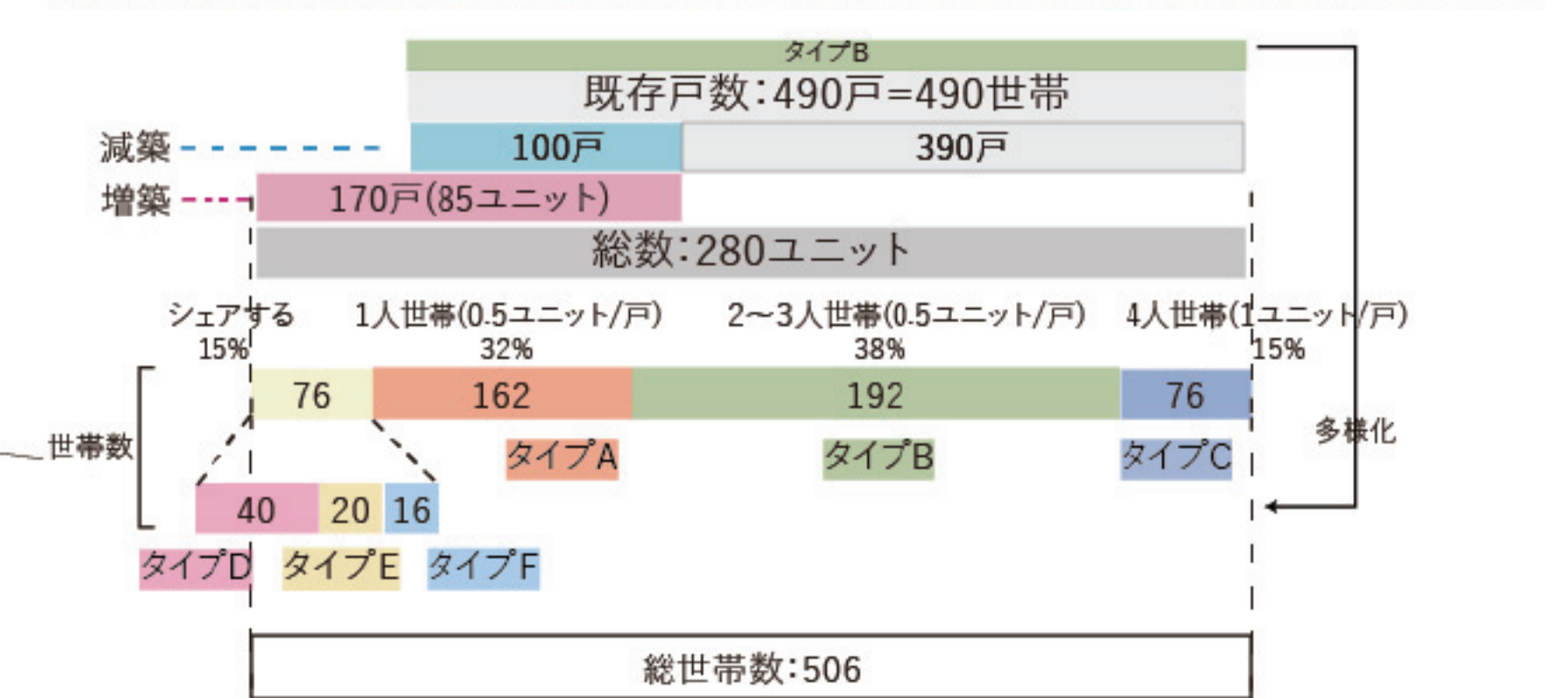
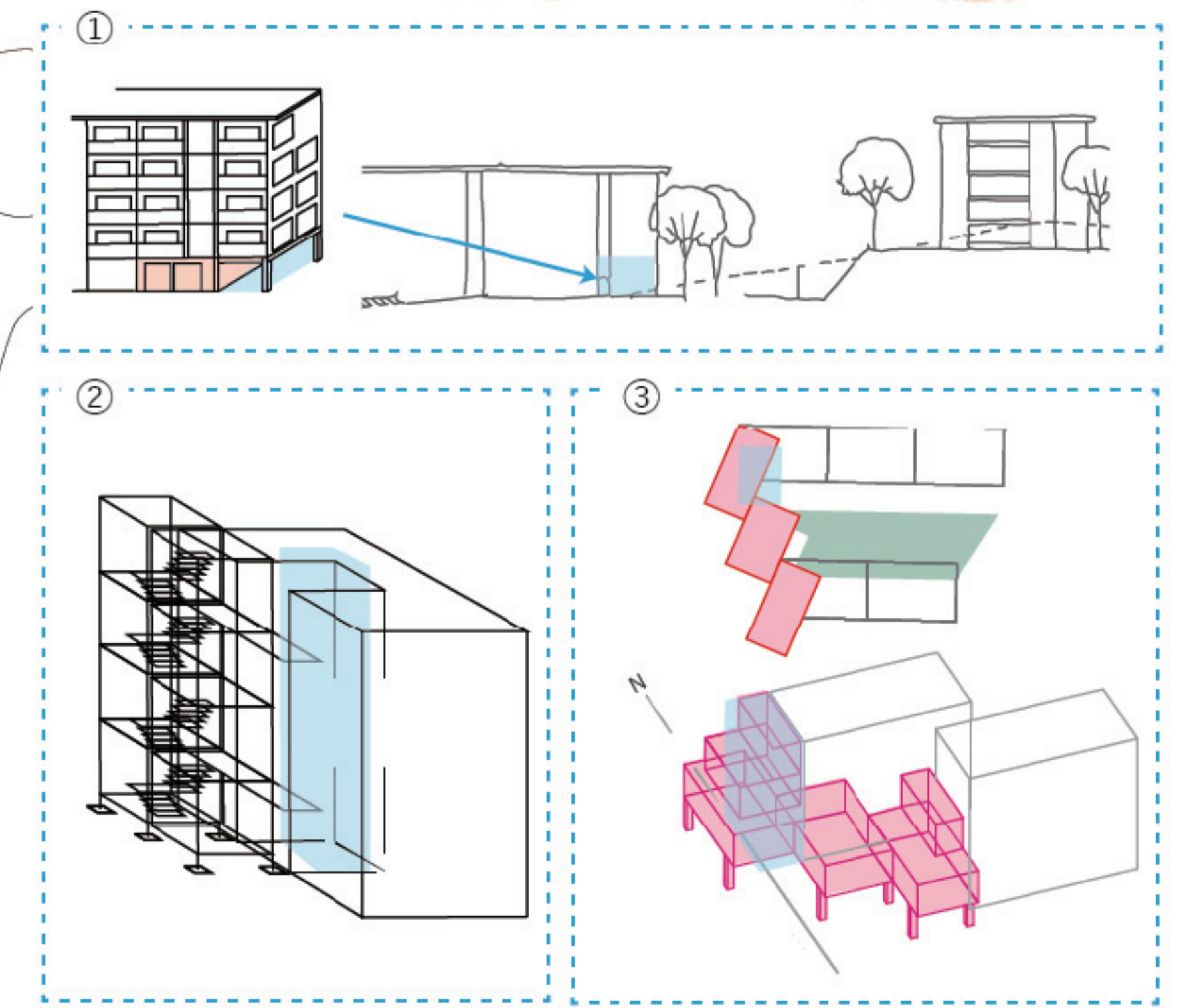
現代的シェア居住を含む多様な生活像の複合による集合住宅の研究と設計提案 千里NT津雲台団地建替えのケーススタディを通じて 北脇 知花 (槻橋・浅井研究室)

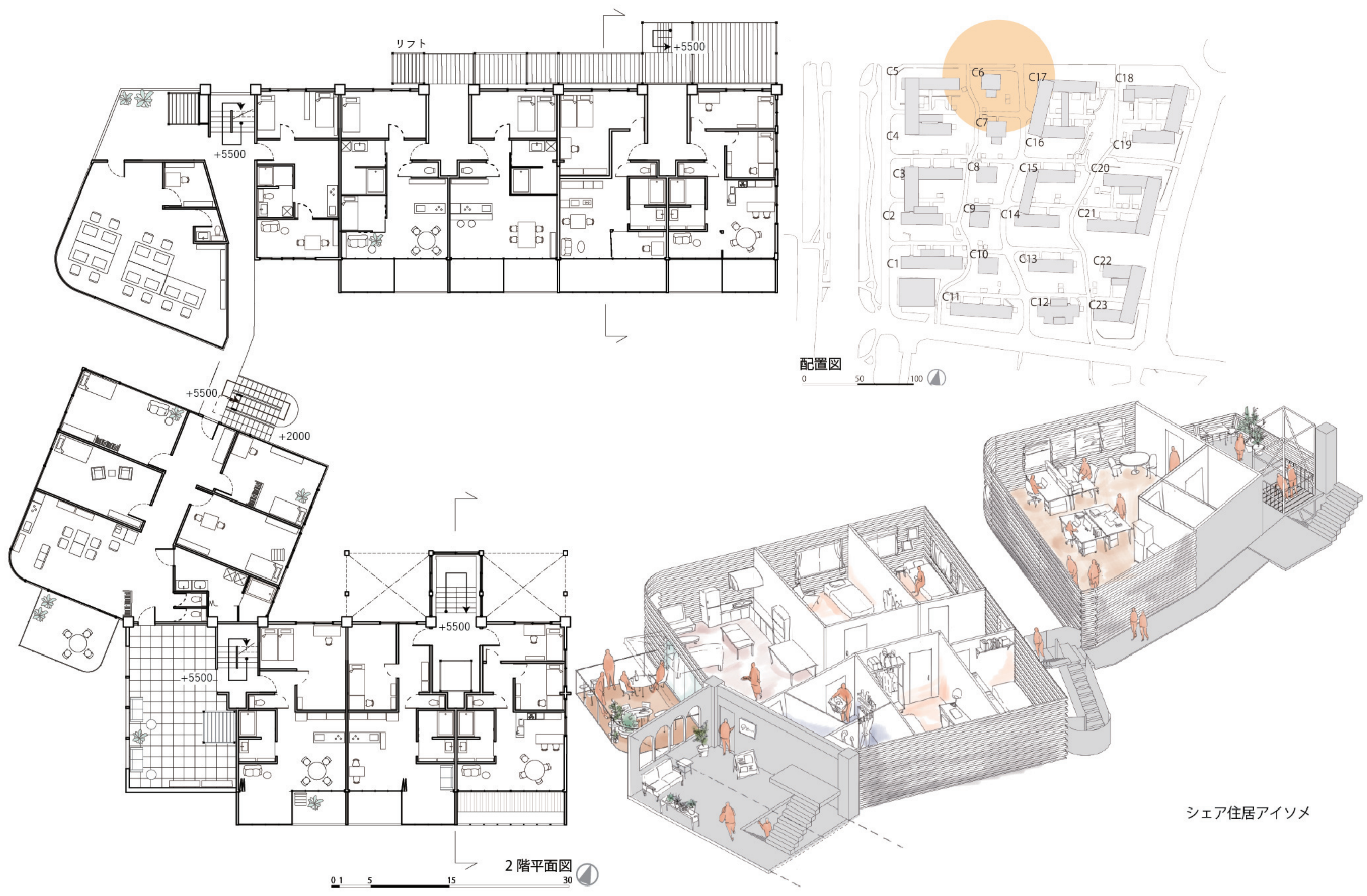


家族形態や個人のライフサイクル、ライフステージが緩急様々に変化するなか、「1世帯=1住戸」に限らない居住単位の再考を目指す住居計画、とりわけ都市の中に点々とみられる他者と暮らすことを前提とした「シェアリビング」に着目する。個々人の異なるライフサイクル、ライフステージが混ざり共存する住空間を分析し、居住者の多様な生活像を想定した複数の住戸プランを複合した集合住宅の設計提案を試みる。そのためのケーススタディとして、本提案では千里NT津雲台団地の団地建替え計画を提案する。



- 専用住戸**
 - タイプA 単身者向け1K
 - タイプB 2~3人
 - タイプC 4人~
- シェア住戸**
 - タイプD 2~4人 ゲストハウス型
 - タイプE 2~4人 コレクティブ型
 - タイプF 1~4人 グループホーム型







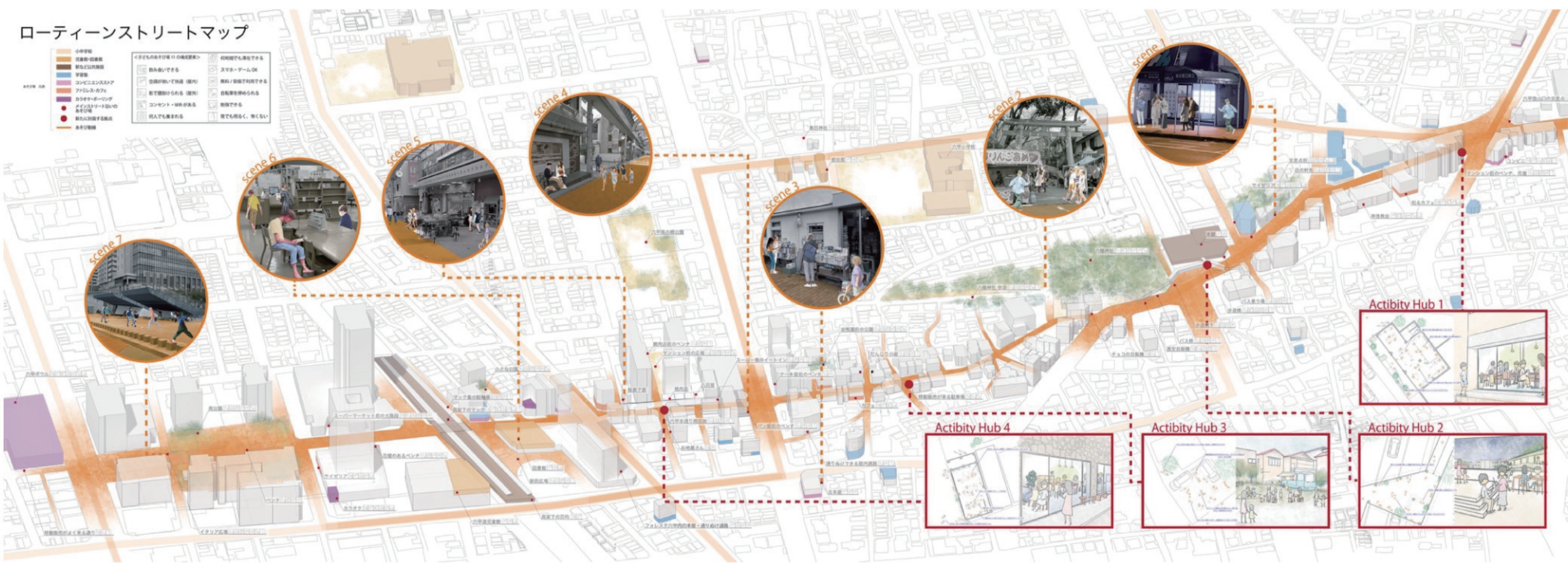
新しい近隣空間の形成に資する未利用地の空間デザインに関する研究および設計提案 フィンランド・タピオラ・ニュータウンの計画手法を参考として
周賢人（槻橋研究室）

全体的な都市計画を欠いたまま個別開発が進行し、結果として土地の造成開発や宅地の細分化、域内交通の不備、空地・空き家問題などが生じている既存の経年住宅地について、開発当初の1950年代からその先進性が謳われ、現在に至るまでその持続性が高く評価され続けているフィンランドのタピオラ・ニュータウンの屋外空間や土地利用の特性を参考に、開発の狭間で取り残された「未利用地」を人間や動植物のための居場所として再計画し新たにつなぎ直すことで、住宅地の景観を再編成する。



まちに開かれた子ども育成の場づくりに関する研究 神戸市灘区の子どものためのローティーンストリートの設計提案
椎原知子（槻橋研究室）

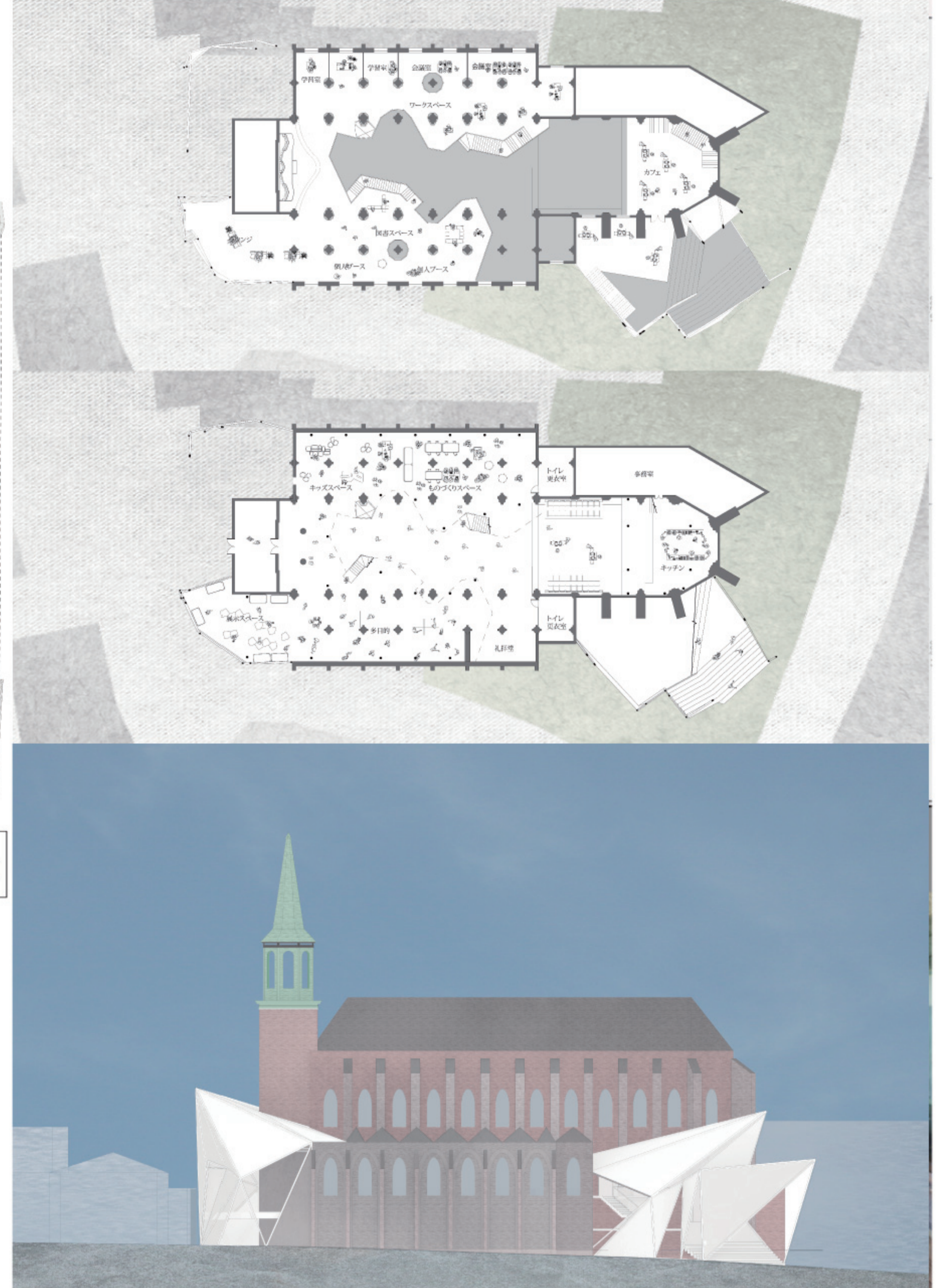
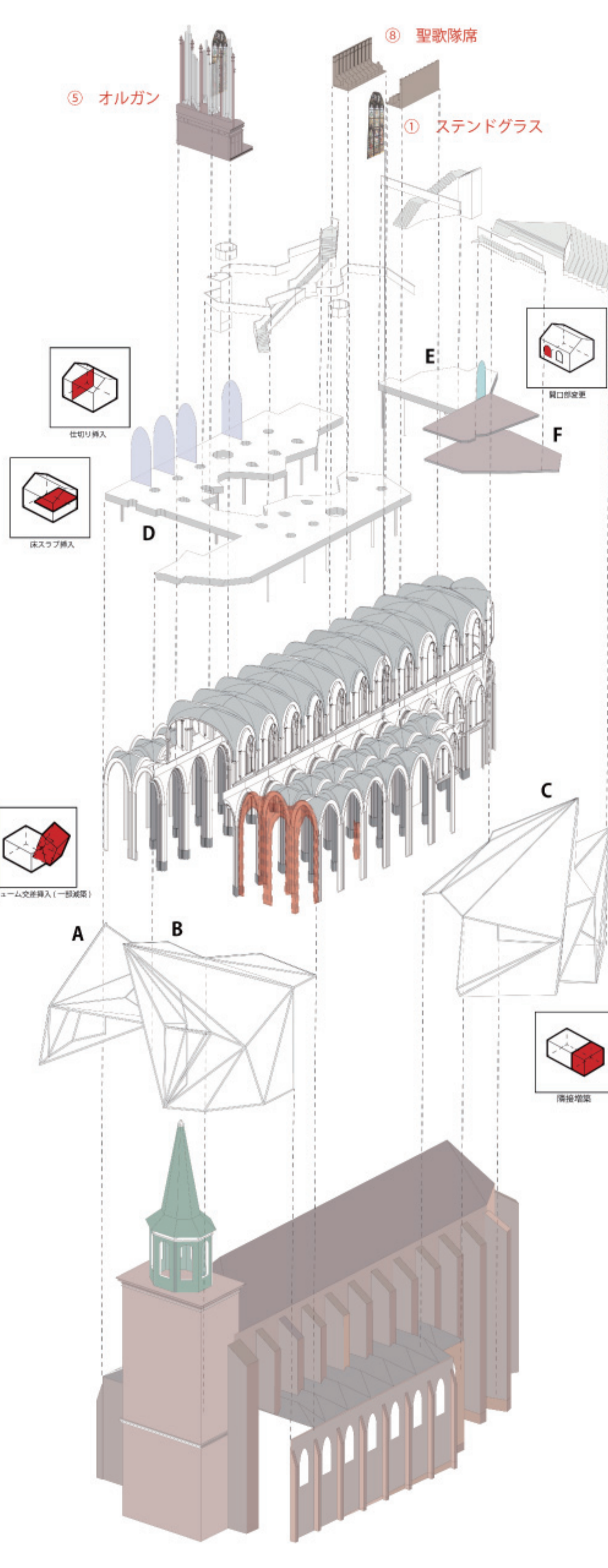
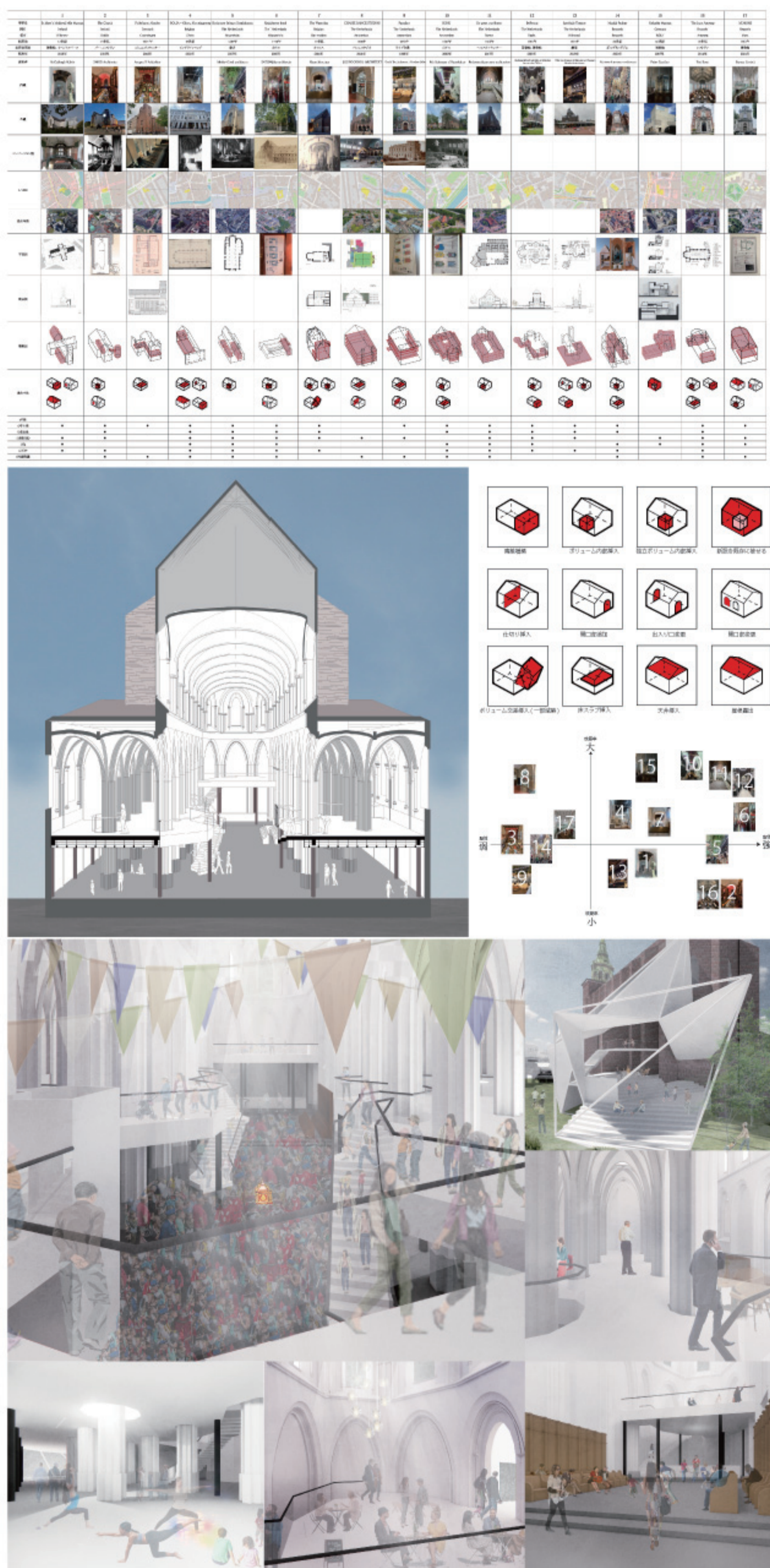
家族形態の急激な変化によって、多くの子どもたちは生きづらさを抱えており、不登校などの諸問題に現れている。また、学校教育の流れとして、教育の学校一極集中から地域負担へと移行する傾向にあり、地域全体で子どもを見守ることができる新しい子ども育成の場づくりが模索されている。これらの背景を踏まえて、本研究は、子ども育成のあり方の現状とそこでの課題の整理と、具体的な場における子どもの実態把握を通して、新しい子ども育成の場づくりとして、ローティーンストリートの提案をする。





教会コンバージョンにおける聖性の継承に関する研究 モンス聖エリザベス教会をケーススタディとして
山荘日捺子（槻橋研究室）

近年、ヨーロッパでは、教会コンバージョンが多く見られるが、バーやナイトクラブといった、教会のイメージからかけ離れ物議を醸した例も増えている。本研究では、「宗教的意味がなくなってもなお、聖なる空間だと感じる空間は、どのような空間特性を持つのか？」という問題提起から、教会の空間特性を「聖性」の観点から分析し、設計に応用することで、教会が本来持っていた「聖性」を継承したコンバージョンの提案を試みる。



■ 修士設計公聴会の様子

修士設計レビュー

[日時] 2024年12月23日(月) 9:00~12:00

[場所] 先端膜工学研究拠点 301室

修士設計公聴会

[日時] 2025年2月15日(木) 8:45~10:00

[場所] 神戸大学工学部 C1-301

[担当教員]

主 査：槻橋修（教授）

副 査：末包伸吾（教授）、中江研（教授）、栗山尚子（准教授）

